

【 86 】

氏名 有 光 哲 雄

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第1688 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和61年 9 月30日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 脳腫瘍の局所脳循環に関する研究

論 文 審 査 委 員 教授 寺本 滋 教授 大月三郎 教授 折田薫三

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

$^{133}\text{Xe}$ 内頸動脈注入による局所脳循環量測定を試み、脳腫瘍23症例における基本的な循環動態の解析を行った。病巣部自体での血流量による腫瘍群に分類されたが、腫瘍別による特徴に乏しかった。病巣部では循環動態上2つの系あるいは単一の系より構成され、不均一になっていたが、非病巣部では単一の系が存在し、全般的な血流減少を示した。次いで病巣部と非病巣部における血流量の相対的比較では、病巣部から遠隔部に向う程相対的血流減少を呈する群と、逆に相対的血流増加を示す群に区別された。前群は病巣部血流量の相対的増加症例で観察され、背景病態に病巣周辺部の脳学腫などの存在が考えられた。後群は病巣部血流の相対的減少症例にしばしば観察され、背景に intracerebral steal 現象などが考えられた。

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は脳腫瘍の局所脳循環に関して臨床的に検討したものであって、脳腫瘍、脳動静脈奇型および脳内血腫の合計23例について  $^{133}\text{Xe}$ を内頸動脈に注入し、局所脳循環量測定を試み循環動態の解析を行った結果、重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。